

PAT-NO: JP02000076326A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000076326 A
TITLE: MEDICAL FEE COLLECTING AMOUNT
CALCULATING DEVICE
PUBN-DATE: March 14, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ITOU, YACHIYO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SANYO ELECTRIC CO LTD	N/A

APPL-NO: JP10246090

APPL-DATE: August 31, 1998

INT-CL (IPC): G06F017/60

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To speedily calculate an amount to be collected by executing processing for calculating a patient's paying amount on a day of coming to a hospital based on the paying contents of a medical service system which a patient belongs to and a time of collecting at a receptionist counter in order from the medical service system of higher priority.

SOLUTION: This device is formed of a control part 10 executing processing according to a prescribed control program, a storage device 12 holding processing information at the part 10, a display 14, etc.,

Best Available Copy

displaying kinds of information. In constitution like this, the medical treatment record of the day of a patient file is read to gain a corresponding insurance point from an insurance point database. Next, a medical system registered in the patient file is read to decide a priority order in the read medical system based on the priority between respective read medical systems. Processing of calculating the patient paying amount in the order of this priority order to calculate the patient paying amount in the case of applying a medical system whose read priority order is the lowest.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-76326

(P2000-76326A)

(43) 公開日 平成12年3月14日 (2000.3.14)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 6 F 17/60

識別記号

F I

マーク(参考)

G 0 6 F 15/21

3 6 0 5 B 0 4 9

審査請求 未請求 請求項の数5 OL (全7頁)

(21) 出願番号 特願平10-246090

(22) 出願日 平成10年8月31日 (1998.8.31)

(71) 出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72) 発明者 伊藤 八千代

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(74) 代理人 100087778

弁理士 丸山 明夫

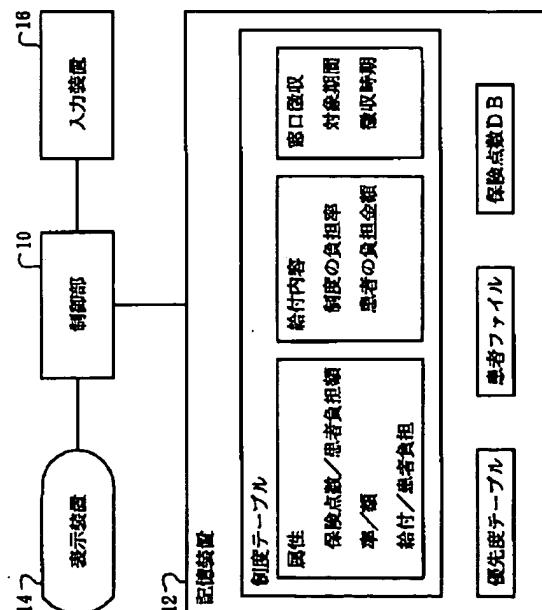
Fターム(参考) 5B049 AA02 BB41 CC36 EE02 EE05

(54) 【発明の名称】 医療費徴収額算出装置

(57) 【要約】

【課題】 医療機関の窓口で患者から徴収すべき金額を、患者の属する医療制度の数にかかわらず、速やかに算出できるようにする。

【解決手段】 医療費の一部を負担する医療制度の負担内容及び患者負担分の窓口での徴収時期を各医療制度毎に保持する制度テーブルと、医療制度が重複する場合の制度適用の優先度を保持する優先度テーブルと、来院日の診療内容に応じて決定された医療費と患者が属する医療制度の負担内容及び窓口徴収時期に基づいて来院日の患者負担額を算出する処理を優先度の高い医療制度から順に実行するとともに各算出結果を次に優先度の高い医療制度での算出処理に供する演算手段と、を有することを特徴とする医療費徴収額算出装置。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 医療費の一部を負担する医療制度の負担内容及び患者負担分の窓口での徴収時期を各医療制度毎に保持する制度テーブルと、
医療制度が重複する場合の制度適用の優先度を保持する優先度テーブルと、
来院日の診療内容に応じて決定された医療費と患者が属する医療制度の負担内容及び窓口徴収時期に基づいて来院日の患者負担額を算出する処理を、優先度の高い医療制度から順に実行するとともに、各算出結果を次に優先度の高い医療制度での算出処理に供する演算手段と、
を有することを特徴とする医療費徴収額算出装置。

【請求項2】 請求項1に於いて、
制度テーブルの内容、及び／又は、優先度テーブルの内容を、任意に書き換えるための入力手段を有する、
ことを特徴とする医療費徴収額算出装置。

【請求項3】 医療費の一部を負担する医療制度に関して、医療費に対する率の金額を制度が負担するか又は医療費から或る金額を減額した残額を制度が負担するかの率／額の属性と、医療費から制度の負担金額を減額した残額を患者が支払うか又は患者の支払い金額の残額を制度が負担するかの給付／患者負担の属性を、医療制度毎に記憶している属性記憶手段と、

医療制度の負担率又は患者の負担すべき金額の何れかを給付内容として医療制度毎に記憶している内容記憶手段と、

医療費算出の単位である対象期間についての患者からの徴収時期を医療制度毎に記憶している時期記憶手段と、医療制度相互間の優先度を各医療制度毎に記憶している優先度記憶手段と、

患者が属する医療制度の優先順位を優先度記憶手段の情報に基づいて決定する優先順位決定手段と、

来院日の診療内容に対応する医療費を算出する医療費算出手段と、

患者が属する医療制度が定める徴収時期であることを条件として当該医療制度の属性と給付内容とに応じて定まる算出式に来院日の医療費又は算出済みの患者負担額を適用して患者負担額を算出する処理を優先順位の高い医療制度から順に実行する演算手段と、
を有することを特徴とする医療費徴収額算出装置。

【請求項4】 医療費の一部を負担する医療制度に関して、算出の基礎が保険点数であるか又は算出済みの患者負担額であるかの保険点数／患者負担額の属性と、医療費に対する率の金額を制度が負担するか又は医療費から或る金額を減額した残額を制度が負担するかの率／額の属性と、医療費から制度の負担金額を減額した残額を患者が支払うか又は患者の支払い金額の残額を制度が負担するかの給付／患者負担の属性を、医療制度毎に記憶している属性記憶手段と、

医療制度の負担率又は患者の負担すべき金額の何れかを

2

給付内容として医療制度毎に記憶している内容記憶手段と、

医療費算出の単位である対象期間についての患者からの徴収時期を医療制度毎に記憶している時期記憶手段と、医療制度相互間の優先度を各医療制度毎に記憶している優先度記憶手段と、

患者が属する医療制度の優先順位を優先度記憶手段の情報に基づいて決定する優先順位決定手段と、

患者が属する医療制度が定める徴収時期であることを条件として当該医療制度の属性と給付内容とに応じて定まる算出式に来院日の診療内容に対応する保険点数又は算出済みの患者負担額を適用して患者負担額を算出する処理を優先順位の高い医療制度から順に実行する演算手段と、
を有することを特徴とする医療費徴収額算出装置。

【請求項5】 請求項3、又は請求項4に於いて、
医療制度の属性、給付内容、徴収時期、医療制度相互間の優先度、の少なくとも1つを任意に書き換えるための入力手段を有する、ことを特徴とする医療費徴収額算出装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、医療費徴収額算出装置に関する。本発明の装置は、医療機関の窓口で患者が支払うべき患者負担額（＝徴収額）を、患者の医療費が2以上の医療制度によってカバーされている場合でも速やかに算出することができる。

【0002】

【従来の技術】患者の医療費の一部を負担する医療制度として、保険（国保、社保等）、老人保健、公費（生活保護等）、助成（東京都老人福祉、北海道障害者福祉等）等の種々の制度があり、これらの中には、重複が許容されているものもある。このため、複数の医療制度によって医療費をカバーされる患者も存在する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】医療費を複数の医療制度によって補助されている患者の場合、医療機関の窓口に於いて、患者から徴収すべき金額（患者負担額）を速やかに算出できない場合があり、事務処理遅延の一因となっている。特に、医療制度の負担内容が社会情勢等に伴って変えられた直後等には、上記の困難性が一層増し、事務処理の混乱を招いている。

【0004】本発明は、医療機関の窓口で患者から徴収すべき金額を、患者の属する医療制度の数や、その増減、各医療制度の負担内容の変更等にかかわらず、速やかに算出できるようにすることを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明は、医療費の一部を負担する医療制度の負担内容及び患者負担分の窓口での徴収時期を各医療制度毎に保持する制度テー

ブルと、医療制度が重複する場合の制度適用の優先度を保持する優先度テーブルと、来院日の診療内容に応じて決定された医療費と患者が属する医療制度の負担内容及び窓口徴収時期に基づいて来院日の患者負担額を算出する処理を優先度の高い医療制度から順に実行するとともに各算出結果を次に優先度の高い医療制度での算出処理に供する演算手段と、を有することを特徴とする医療費徴収額算出装置である。制度テーブルは必ずしも単一のテーブルとして構成されている必要は無い。医療制度の負担内容及び患者負担分の窓口での徴収時期は、単一のテーブルに保持されていてもよく、別々のテーブルに保持されていてもよい。優先度テーブルについても同様である。

【0006】請求項2の発明は、請求項1に於いて、制度テーブルの内容、及び／又は、優先度テーブルの内容を、任意に書き換えるための入力手段を有する、ことを特徴とする医療費徴収額算出装置である。即ち、医療制度の負担内容等が改変された場合に、その改変内容の入力という操作を行うのみで、患者から徴収すべき金額を従前と同様に算出できる装置である。

【0007】請求項3の発明は、医療費の一部を負担する医療制度に関して医療費に対する或る率の金額を制度が負担するか又は医療費から或る金額を減額した残額を制度が負担するかの率／額の属性と医療費から制度の負担金額を減額した残額を患者が支払うか又は患者の支払い金額の残額を制度が負担するかの給付／患者負担の属性を医療制度毎に記憶している属性記憶手段と、医療制度の負担率又は患者の負担すべき金額の何れかを給付内容として医療制度毎に記憶している内容記憶手段と、医療費算出の単位である対象期間についての患者からの徴収時期を医療制度毎に記憶している時期記憶手段と、医療制度相互間の優先度を各医療制度毎に記憶している優先度記憶手段と、患者が属する医療制度の優先順位を優先度記憶手段の情報に基づいて決定する優先順位決定手段と、来院日の診療内容に対応する医療費を算出する医療費算出手段と、患者が属する医療制度が定める徴収時期であることを条件として当該医療制度の属性と給付内容とに応じて定まる算出式に来院日の医療費又は算出済みの患者負担額を適用して患者負担額を算出する処理を優先順位の高い医療制度から順に実行する演算手段と、を有することを特徴とする医療費徴収額算出装置である。上記の構成は、例えば、図5と図4の手順を用いて実現される。

【0008】請求項4の発明は、医療費の一部を負担する医療制度に関して算出の基礎が保険点数であるか又は算出済みの患者負担額であるかの保険点数／患者負担額の属性と医療費に対する或る率の金額を制度が負担するか又は医療費から或る金額を減額した残額を制度が負担するかの率／額の属性と医療費から制度の負担金額を減額した残額を患者が支払うか又は患者の支払い金額の残

額を制度が負担するかの給付／患者負担の属性を医療制度毎に記憶している属性記憶手段と、医療制度の負担率又は患者の負担すべき金額の何れかを給付内容として医療制度毎に記憶している内容記憶手段と、医療費算出の単位である対象期間についての患者からの徴収時期を医療制度毎に記憶している時期記憶手段と、医療制度相互間の優先度を各医療制度毎に記憶している優先度記憶手段と、患者が属する医療制度の優先順位を優先度記憶手段の情報に基づいて決定する優先順位決定手段と、患者が属する医療制度が定める徴収時期であることを条件として当該医療制度の属性と給付内容とに応じて定まる算出式に来院日の診療内容に対応する保険点数又は算出済みの患者負担額を適用して患者負担額を算出する処理を優先順位の高い医療制度から順に実行する演算手段と、を有することを特徴とする医療費徴収額算出装置である。上記の構成は、例えば、図2～図4の手順を用いて実現される。

【0009】請求項5の発明は、請求項3又は請求項4に於いて、医療制度の属性、給付内容、徴収時期、医療制度相互間の優先度の少なくとも1つを任意に書き換えるための入力手段を有することを特徴とする医療費徴収額算出装置である。即ち、医療制度の負担内容等が改変された場合に、その改変内容の入力という操作を行うのみで、患者から徴収すべき金額を従前と同様に算出できる装置である。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を説明する。図1は第1及び第2の実施例の装置の構成を示すブロック図、図2～図4は図1の装置を用いて実施される第1の実施例の処理手順を示すフローチャート、図5と図4は図1の装置を用いて実施される第2の実施例の処理手順を示すフローチャート、図6は図1内の制度テーブルを示す説明図、図7は図1内の優先度テーブルを示す説明図である。

【0011】1. 装置の構成、本徴収額算出装置は、医療機関に於ける診療や事務を支援するためのコンピュータシステム内に構成されるが、本徴収額算出装置のみを単独で構成することも可能である。上記のコンピュータシステムには、医師の診療内容の記録（電子カルテ）

40 や、種々の医療事務の事務情報等も記録されるが、以下の説明では、徴収額算出装置としての構成部分のみについて説明する。

【0012】まず、図1、図6、図7を参照して装置の構成を説明する。図示のように、本徴収額算出装置は、ROMに記憶されている所定の制御プログラムに従って処理を実行する制御部10と、制御部10での処理によって読み出されたり書き込まれたりする情報を保持するための記憶装置12と、制御部10での処理に基づいて種々の情報が表示される表示装置14と、制御部10に50 対してオペレータが種々の情報（例えば、医療制度の負

担内容等を書き換えるための情報等)を入力するための入力装置16とを有する。

【0013】記憶装置12には、制度テーブル、優先度テーブル、患者ファイル、保険点数データベース等が記憶されている。

【0014】制度テーブルは、図6に示すように、各医療制度毎に、当該医療制度の負担内容を規定する属性情報と、医療制度の負担率又は患者の負担すべき金額の何れかを示す給付内容情報と、医療費算出の単位である対象期間についての患者からの徴収時期を示す徴収時期情報とを保持している。ここで、属性情報としては、算出の基礎が保険点数であるか又は算出済みの患者負担額であるかの保険点数／患者負担額の属性と、医療費に対する或る率の金額を制度が負担するか又は医療費から或る金額を減額した残額を制度が負担するかの率／額の属性と、医療費から制度の負担金額を減額した残額を患者が支払うか又は患者の支払い金額の残額を制度が負担するかの給付／患者負担の属性とがある。なお、制度テーブルはテーブルとして構成されていてもよいが、上記の情報が記憶装置12内に記憶されていて、後述の処理に於いて読み出し可能であれば足りる。

【0015】これらの情報(属性情報、給付内容情報、徴収時期情報)は、入力装置16からの入力により、任意に書き換え可能である。記憶装置に記憶されているデータを書き換える手順は公知であるため、説明は省略する。

【0016】優先度テーブルは、図7に示すように、各医療制度毎に、当該医療制度の種別を示す情報である支払い区分と、各支払い区分に対して当該医療制度が優先するか又は優先しないかを示す優先度情報を保持している。なお、優先度テーブルも、制度テーブルと同様に、テーブルとして構成されていてもよいが、上記の情報が記憶装置12内に記憶されていて、後述の処理に於いて読み出し可能であれば足りる。また、同様に、入力装置16からの入力により、任意に書き換え可能である。

【0017】患者ファイルには、当該患者の属する医療制度や患者の個人情報(住所、生年月日等)の他、各診療時の診療記録等が記録されている。保険点数データベースには、種々の診療内容や投薬についての保険点数が、保険点数の変更に対応可能のように、書き換え可能に記録されている。

【0018】2. 第1の実施例。図2～図4を参照して、第1の実施例を説明する。第1の実施例では、診療に伴って発生する医療費(保険点数×10)が、優先度が最も高い医療制度適用時の患者負担額の算出時に計算される。

【0019】まず、患者ファイルの当日の診療記録が読み出され、その診療内容に対応する保険点数が保険点数データベースから取得される(S01)。

【0020】次に、患者ファイルに登録されている医療制度が読み出され(S11)、読み出された各医療制度相互間の優先度(図7参照)に基づいて、読み出された医療制度内での優先順位iが決定される(S13)。

【0021】優先順位iに初期値1がセットされた後(S21)、処理A(順位iの医療制度に関して患者負担額を算出する処理)が、優先順位iの順に実行され、読み出された中で優先順位が最も低い医療制度を適用した場合の患者負担額が算出されると(S23:YE S)、本処理が終了する。

【0022】処理Aは、図3に示すように実行される。まず、当該医療制度の保険点数／患者負担額の属性がチェックされる(S31)。優先度テーブルと制度テーブルの比較から明らかのように、優先度の高い医療制度の保険点数／患者負担額の属性は、算出の基礎を保険点数に置く属性である。このため、当初、ステップS31での判定結果は「YES」となり、当該医療制度に於ける患者負担額は、ステップS43/S44/S46/S47の何れかの算出式に基づいて決定される。

【0023】例えば、国保の場合は、ステップS43の算出式によって患者負担額が算出される。また、船員下船後、又は、老人保健、又は、生活保護の場合は、ステップS47の算出式によって患者負担額が算出される。

【0024】なお、算出式が記述されているステップでは、その算出式の適用前に、医療制度に応じて窓口徴収時期情報が参照されて当日が徴収時期に該当するか否かチェックされ、該当しない場合には徴収額が0とされる。但し、この処理ステップについては図3では図示が省略されている。なお、後述の図4に於いて算出式の記述されているステップの場合も同様である。

【0025】優先順位が2番目以降の医療制度に関する処理では、ステップS31での判定結果が、YESの場合と、NOの場合がある。YESの場合は上記と同様であるが、NOの場合は図4に示す処理B(順位iの医療制度に関して患者負担額を算出する処理)が実行される(S50)。

【0026】処理Bは、変数「患者負担額」に、既に何らかの金額が代入されている状態で実行される処理であり、ステップS53/S54/S56/S57の何れかの算出式に基づいて患者負担額が決定される。

【0027】例えば、東京都老人福祉の場合は、ステップS57の算出式によって患者負担額が算出される。また、北海道障害者福祉の場合は、ステップS53の算出式によって患者負担額が算出される。

【0028】なお、第1の実施例で処理Bが実行される場合には、処理Bの実行以前に優先度の高い医療制度を適用して算出された患者負担額が変数「患者負担額」に代入されているが、下記の第2の実施例で処理Bが最初に実行される場合には、図5のステップS03で算出された金額が変数「患者負担額」に代入されている。

【0029】3. 第2の実施例. 図5～図4を参照して、第2の実施例を説明する。第2の実施例では、診療に伴って発生する医療費（保険点数×10）が算出されて、まず、変数「患者負担額」に代入される（S03）。このため、医療制度を適用して患者負担額を算出する処理で医療費を算出する必要はなくなり、したがって、第1の実施例のステップS31の処理も不要となる。このため、第2の実施例では、順位iの医療制度に関する患者負担額を算出する処理としては、処理Bが実行される。他の点については処理Aと同様であるため、説明は省略する。

【0030】

【発明の効果】本発明によると、医療機関の窓口で患者から徴収すべき金額を、患者の属する医療制度の数にかかわらず、速やかに算出することができる。また、請求項目2や請求項目5の発明では、患者の属する医療制度の数の増減や各医療制度の負担内容の改変等にかかわらず、

上記の算出を速やかに行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施の形態の装置の構成を示すブロック図。

【図2】第1の実施例の装置の処理手順を示すフローチャート。

【図3】図2のステップS30の処理手順を示すフローチャート。

【図4】図3と図5のステップS50の処理手順を示すフローチャート。

10 【図5】第2の実施例の装置の処理手順を示すフローチャート。

【図6】制度テーブルを示す説明図。

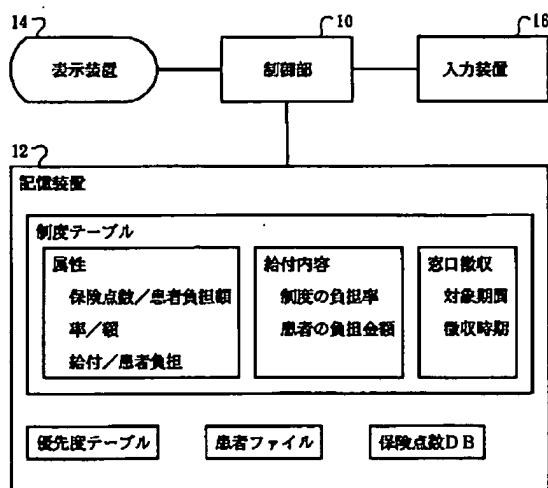
【図7】優先度テーブルを示す説明図。

【符号の説明】

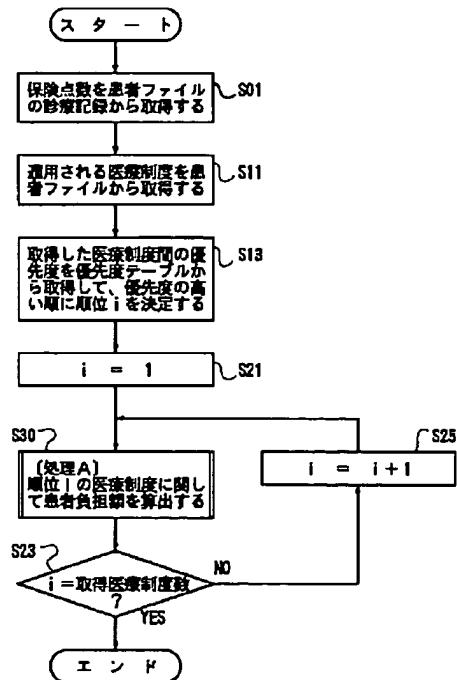
10 制御部

12 記憶装置

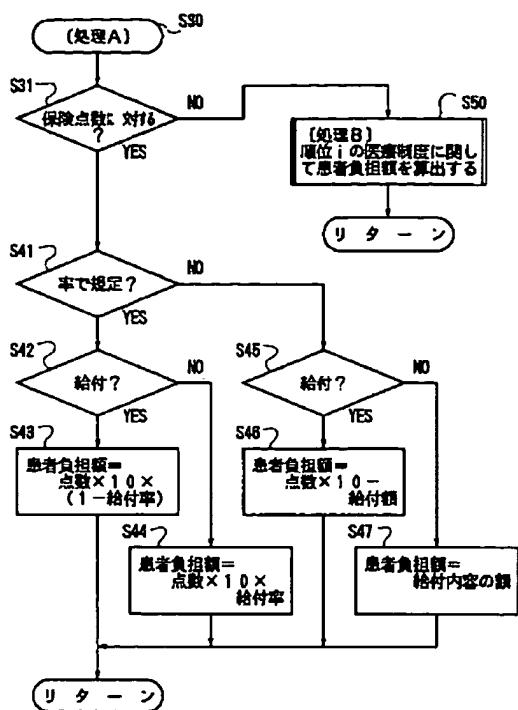
【図1】



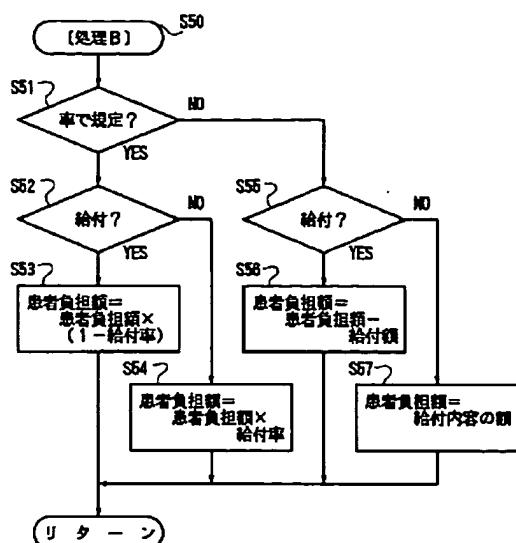
【図2】



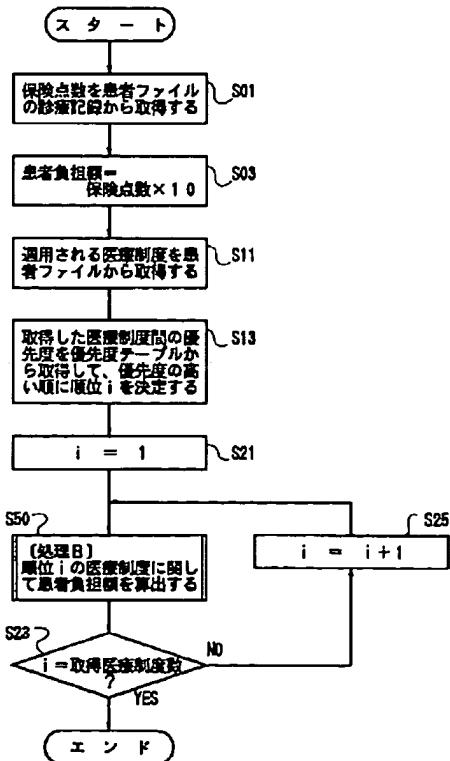
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

医療保険 制度名称	給付区分			給付 内容	窓口取扱	
	率	保険点数/患者負担額	給付/患者負担		時期	回数
国保	保険点数全体に対する給付率					
率	保険点数に対し	給付	1来院	70%	来院毎	1回
船員 下船後	保険点数全体に対する患者一部負担金					
額	保険点数に対し	患者負担	1診療期間	200円	診療期間	1回
老人保健	同上(月初4日迄は1日に付き500円負担)					
額	保険点数に対し	患者負担	1日	500円	月	4回
生活保護	同上(1診療期間において患者の負担能力に応じた額)					
額	保険点数に対し	患者負担	1診療期間	0円	診療期間	1回
東京都 老人福祉	日々の患者負担額に対する患者一部負担金					
額	患者負担額に対し	患者負担	1日	500円	月	4回
北海道障 害者福祉	来院毎の患者負担額に対する給付率					
率	患者負担額に対し	給付	1来院	100%	来院毎	1回

【図7】

医療保険制度名称	支払区分	対保険 優先区分	対老人保健 優先区分	対公費 優先区分	対助成 優先区分
国保	保険	—	他方優先	優先	優先
船員下船後	保険	—	他方優先	優先	優先
老人保健	老人保健	優先	—	優先	優先
生活保護	公費	他方優先	他方優先	他方優先	優先
東京都老人福祉	助成	他方優先	他方優先	他方優先	他方優先
北海道障害者福祉	助成	他方優先	他方優先	他方優先	他方優先